

1 調査目的

本市の将来道路網計画は、昭和59年に実施したパーソントリップ調査結果基に盛岡都市圏総合都市交通体系調査において、盛岡広域都市圏（盛岡市，矢巾町，滝沢村）の平成17年度の夜間人口を50万人と想定し、交通需要に対応する道路網として2環状6放射を基本として定められている。

この道路網計画を踏まえ、昭和13年の当初決定以来見直しが行われていなかった路線等の都市計画道路の見直しに取り組み、2環状6放射の計画路線については約70%の見直しを完了しているが、中心市街地の4車線道路は見直しが行われていない状況にある。

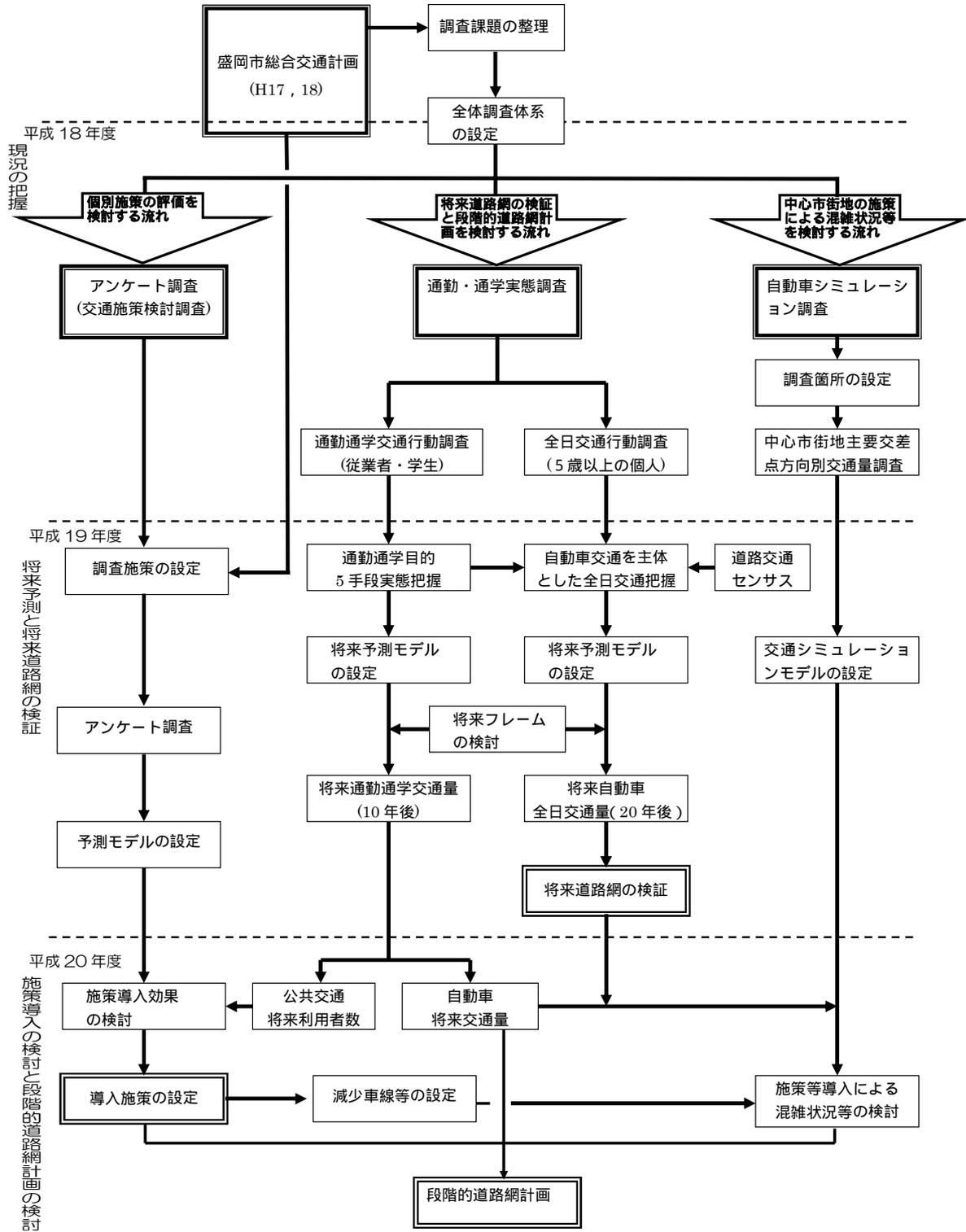
また、策定から約20年が経過し、この間、少子高齢化による人口の減少やモータリゼーションの進展等、社会情勢も変化しており、また、近年の行財政構造改革等により都市計画道路整備等の公共事業費が大幅に減少している状況にある。

さらに、都市計画道路の見直しについては、住民から「自動車以外の交通処理を進めるべき」や「道路計画の前提が変化しており再検討すべき」等の意見が寄せられている。

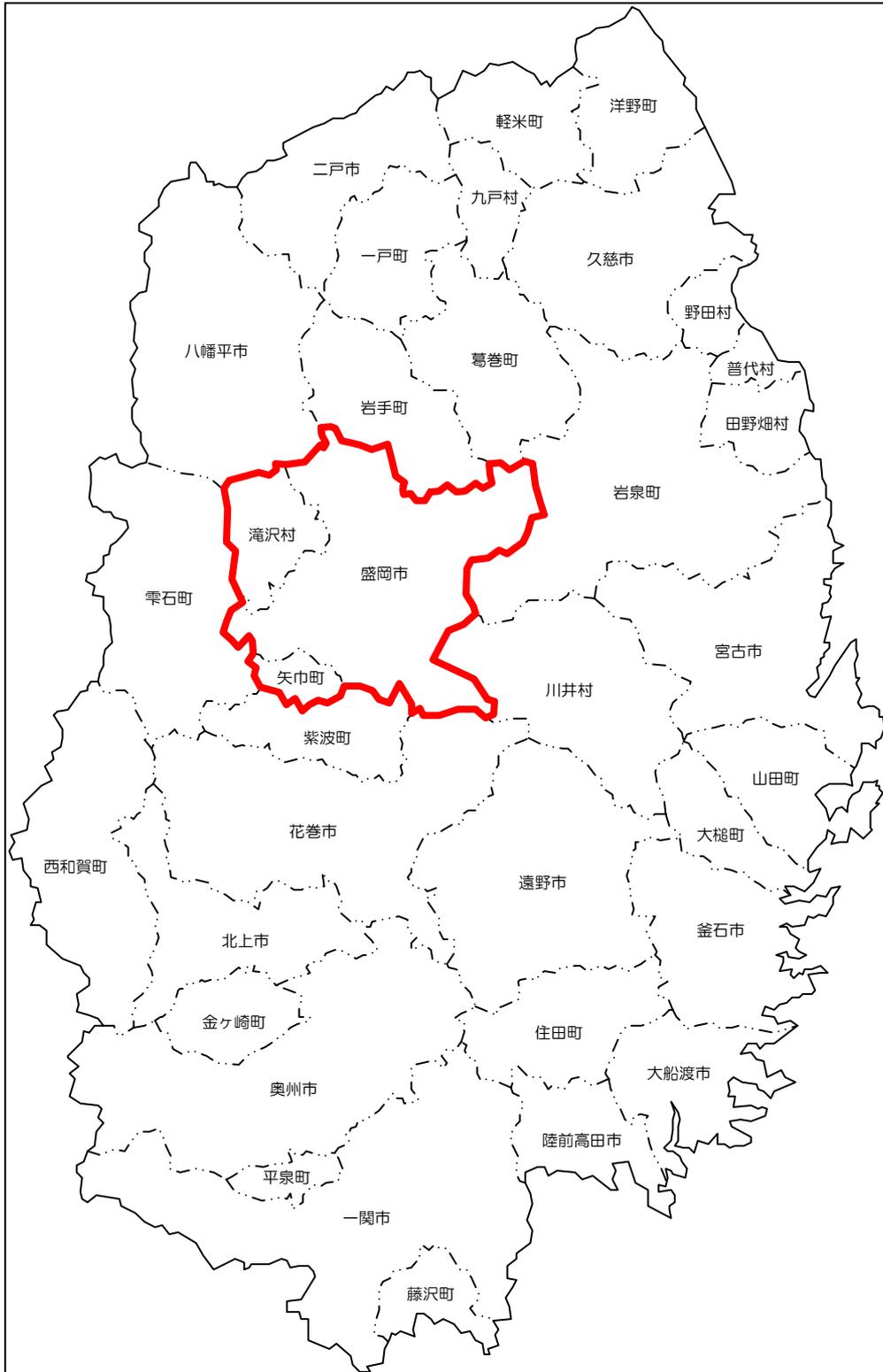
これらの状況を踏まえ、本市では平成16年度に「都市計画道路見直しの今後の進め方」を策定した。

本調査は、これに基づき、平成17年度から市民参加により策定中の「盛岡市総合交通計画」を踏まえ、将来道路網計画の検証とハードとソフト施策を導入し、効率的で効果的な段階的道路網計画を立案する総合的な交通戦略である「もりおか交通戦略」策定のために行うものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

ア．通勤通学交通行動調査（郵送による配布・回収）

a．配布回収結果

調査圏域：盛岡市，矢巾町，滝沢村

抽出率：6.1%（目標回収票数）有効回収率約50%と想定

表4-1通勤通学交通行動調査の配布回収結果（票数ベース）

調査対象	対象者数	配布票数	目標回収票数	回収票数	回収率
圏域内従業者	182,458	22,858	11,216	13,533	59.2%
圏域内学生 (高校,専修学校,短大,大学)	32,210	2,418	1,989	2,313	95.7%
合計	214,668	25,276	13,205	15,846	62.7%

b．調査結果の概要

通勤通学交通行動調査結果の速報集計結果を示す。なお、ここで示す集計結果は、拡大前の単純集計結果であり確定値ではない。

1．回答者の個人属性

(1)通勤通学者の居住地

調査圏域（盛岡市，矢巾町，滝沢村）の居住者は約87%を占め，中でも盛岡市居住者が約70%を占める。

また，本調査は通勤・通学先での調査で着側のODを捉えるため，圏域外居住者のデータも捉えており，その割合は約13%である。

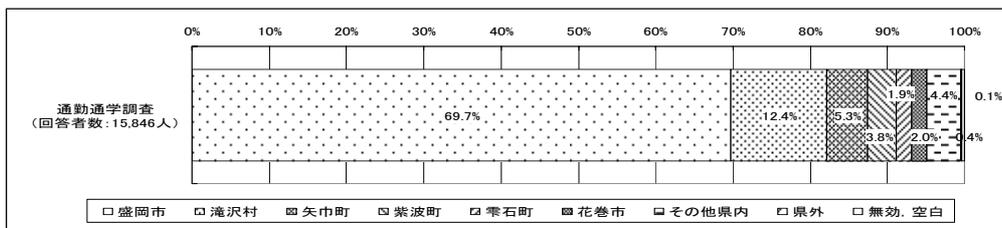


図 4-1 居住地別回答者割合

(2)従業者の性別・年齢構成

男性は，30歳から59歳までの各年齢階層において，12～13%と同程度を占めている。

女性は，25歳から49歳までの各年齢階層において，12～15%と同程度を占めている。

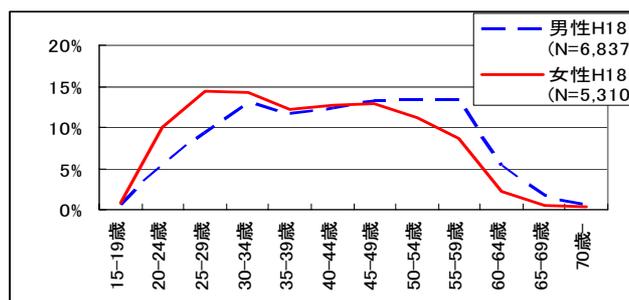


図 4-2 従業者の性別・年齢階層別回答者割合

(3) 自動車免許保有状況

従業者では、自動車免許保有者が約94%であるが、学生では、40%に満たない。

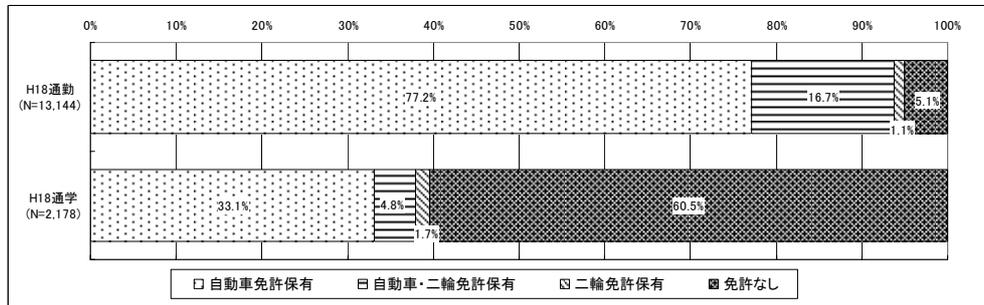


図 4-3 従業者・学生の免許保有状況

(4) 自動車保有状況

従業者の自動車保有状況は、自分専用が約81%を占め、家族共有を合わせると約94%が保有している。

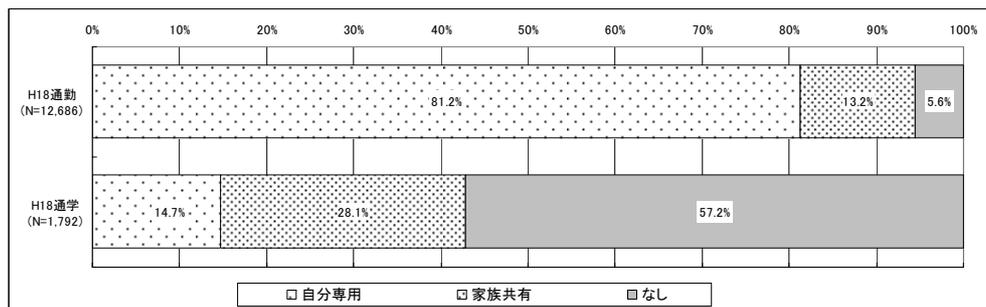


図 4-4 従業者の自動車保有状況

2. 通勤・通学交通実態の概要

(1) 通勤・通学時の代表交通手段

自動車利用が通勤時は約66%、通学時は約10%を占める。

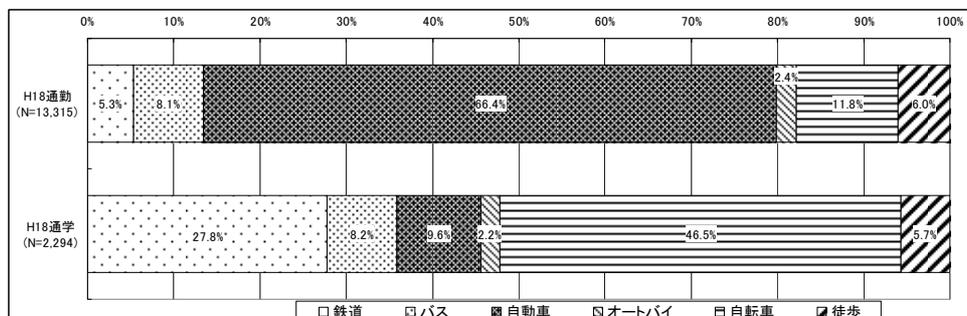


図 4-5 通勤・通学時の代表交通手段

(2)通勤・通学時の自宅出発時刻

通勤時に自宅を出発する時間帯は、7時台が最も高く突出しているが、通学時に自宅を出発する時間帯では、7時台に次いで8時台にも集中している。

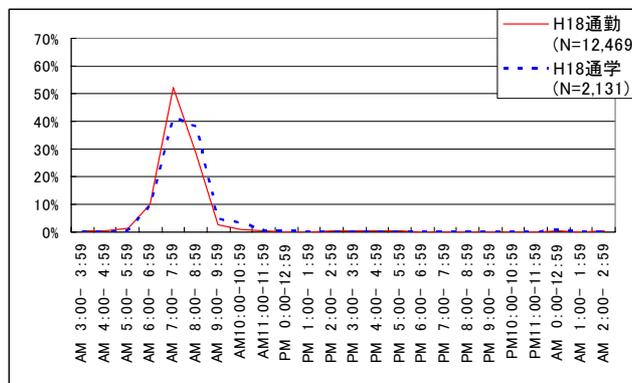


図 4-6 通勤・通学時の自宅出発時刻

(3)通勤・通学時の勤務先・通学先到着時刻

通勤時・通学時に事業所または学校に到着する時間帯はともに8時台に集中している。

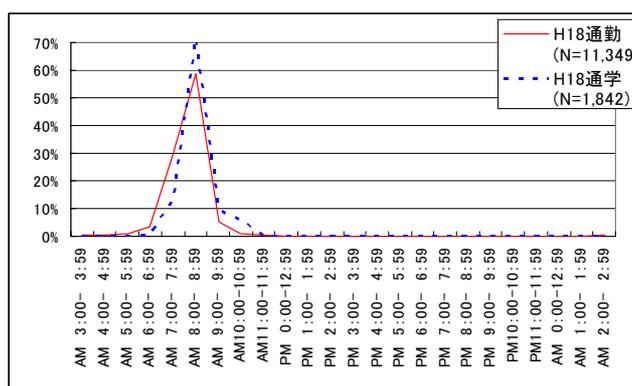


図 4-7 通勤・通学時の勤務先・通学先到着時刻

(4)通勤・通学時の所要時間

通勤時の所要時間は、10分台が多くなっている。

通学時の所要時間は、6分から10分が多い。

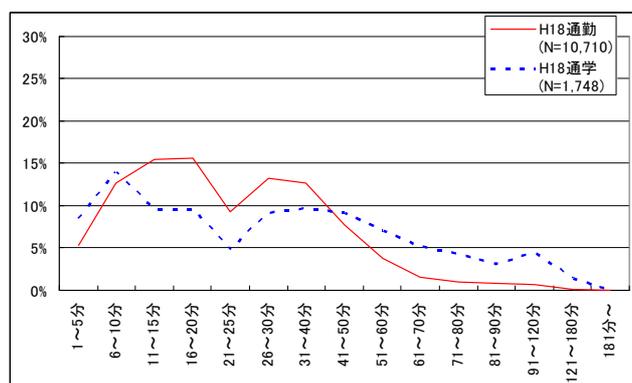
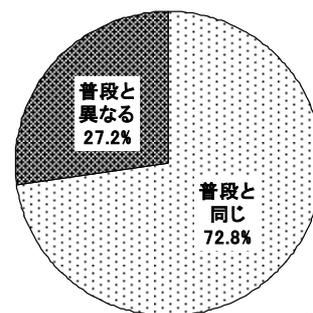


図 4-8 通勤・通学時の所要時間

(5) 冬季の代表交通手段

- ・約27%の人が普段と交通手段が異なると回答している。
- ・自転車、二輪車の4分の3程度が手段を変更し、徒歩やバスなどに転換している。



N=15,844

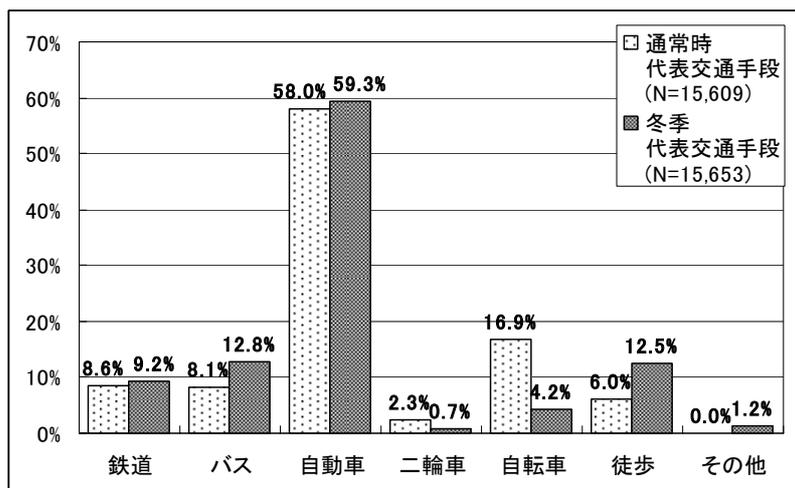


図 4-9 冬季における通勤・通学時の代表交通手段

(6) 冬季の所要時間 (到着時刻 - 出発時刻)

- ・通常時と比べると20分以下が減少する一方21~30分が最も多くなり、31分から1時間30分までの割合も大幅に増加している。

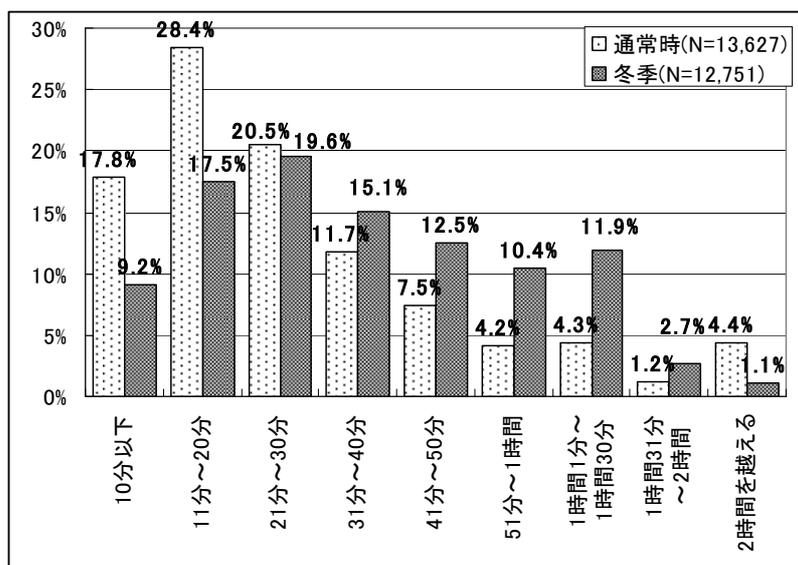


図 4-10 冬季における通勤・通学時の所要時間

イ．全日交通行動調査

a．配布回収結果（世帯に郵送による配布。回収）

本調査は、平成17年度に実施した全国都市交通特性調査の約1,000票を活用する予定であることから、実際の抽出数はこの数を除いた数とした。

調査圏域：盛岡市，矢巾町，滝沢村

抽出率：0.6%（必要回収数）有効回収率を20%と想定

表 4-2 全日交通行動調査の配布回収結果（票数ベース）

対象数	配布票数	目標回収票数	回収票数	回収率
圏域内居住者（5歳以上）357,529人	8,309	1,662	3,193	38.4%

H17 全国都市交通特性調査と合わせると 4,478 票となる。

表 4-3 全日交通行動調査の配布回収結果（世帯ベース）

対象数	配布世帯数	回収世帯数	回収率
圏域内世帯 149,026 世帯	2,899	1,401	48.3%

b．調査結果の概要

以下に、全日交通行動調査の速報集計結果を示す。

1．回答者の個人属性

(1)性別・年齢階層別割合

男性，女性とも，55歳から59歳の年齢階層が，最も多く約10%を占めている。

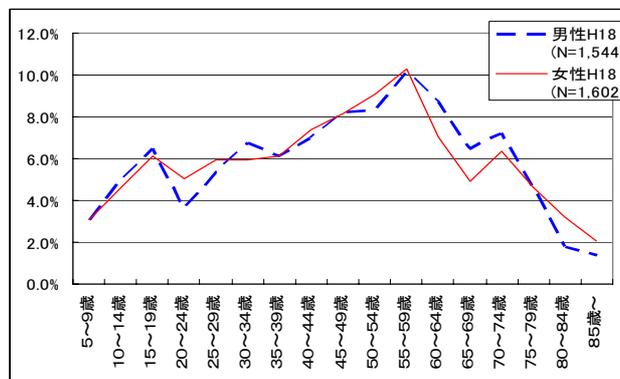


図 4-11 性別・年齢階層別回答者割合

(2)免許保有状況

自動車免許保有者が約70%となっている。

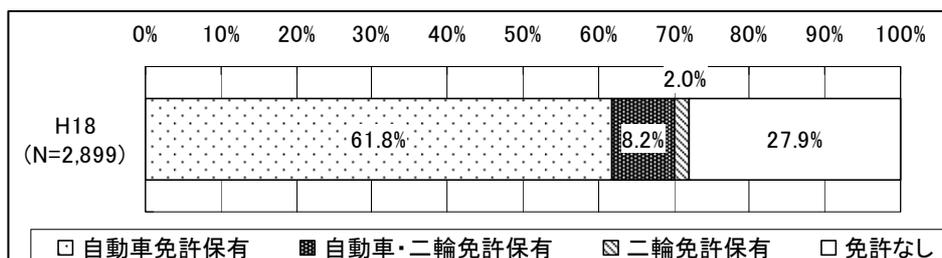


図 4-12 回答者の免許保有状況

2. 全日交通実態の概要

本調査における圏域内居住者の外出率は約 82% で、生成原単位ではグロスで 2.41 トリップ/人・日となっている。

性別年齢階層別の状況を以下に示す。

(1) 性別・年齢階層別の外出率

男性は、30歳から59歳までの各年齢階層で、ほぼ一定の90%程度のお出率となっているのに対し、女性は、15歳から64歳までの各年齢階層で、80%から90%程度のお出率となっている。

(2) 性別・年齢階層別の平均トリップ数

年齢階層別の変動がみられるが、全体の平均トリップ数は男性が2.58、女性が2.25となっている。

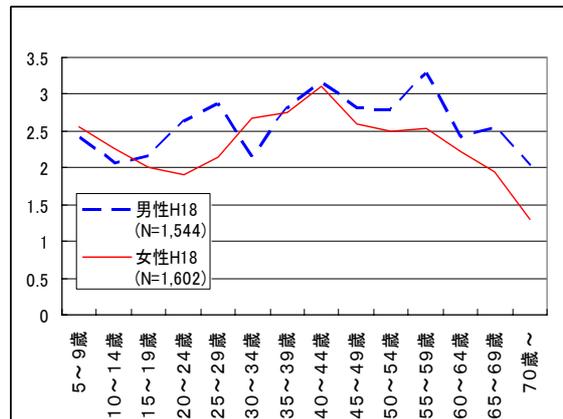
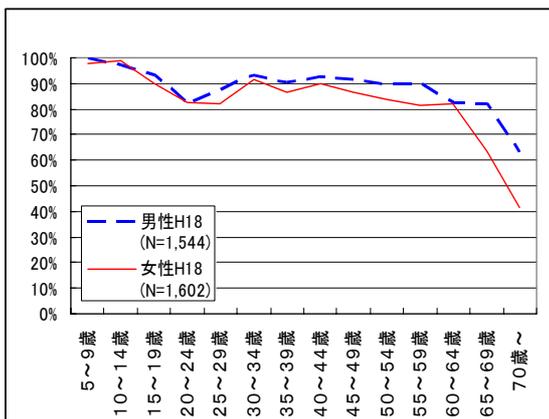


図 4-13 性別・年齢階層別の外出率

図 4-14 性別・年齢階層別の平均トリップ数

(3) 全目的の代表交通手段構成

全目的の代表交通手段は、自動車利用が約 64% を占める。

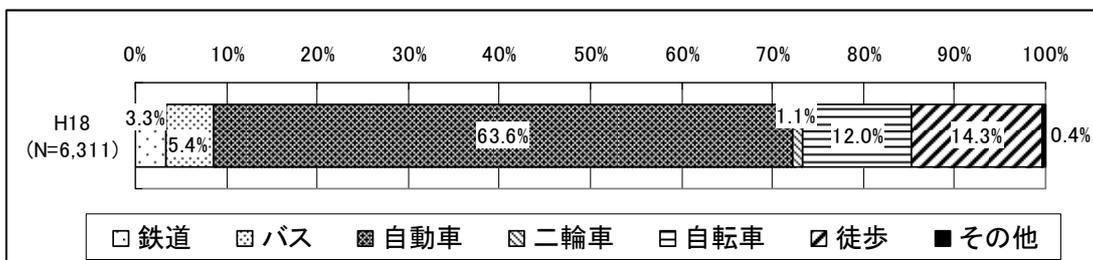


図 4-15 全目的の代表交通手段

ウ．アンケート調査

アンケート調査結果の概要

以下に，アンケート調査結果の概要を示す。

1．事業所アンケート結果

(1)回答事業所区分

回答事業所は727事業所で，民営事業所が約86%を占める。

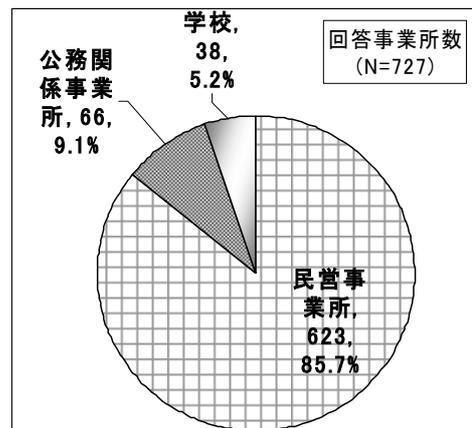


図 4-16 回答事業所区分

(2)時差出勤・フレックスタイムに関する意向

・現在の実施状況

民営事業所では時差出勤またはフレックスタイムを実施している事業所が約15%であるのに対し，公務関係事業所では4割近くが実施している。

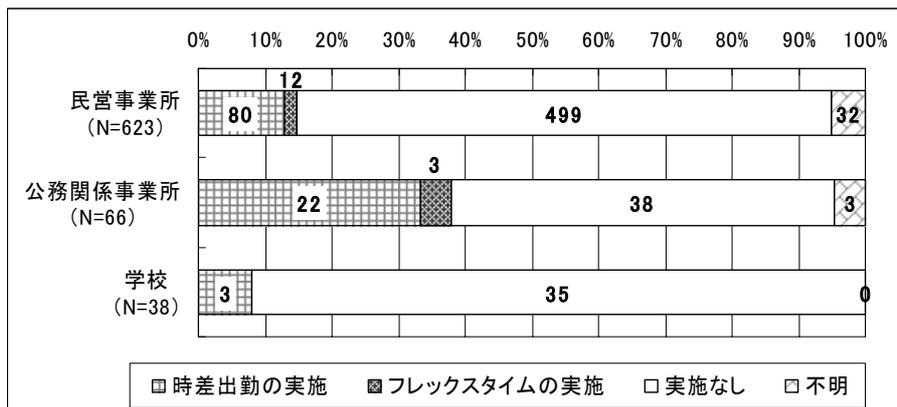


図 4-17 時差出勤・フレックスタイムの現在の実施状況

・今後の導入可能性について

現在実施していない事業所における今後の導入可能性としては，民営事業所では約2割が検討可と回答しており，実施済み事業所とほぼ同数である。

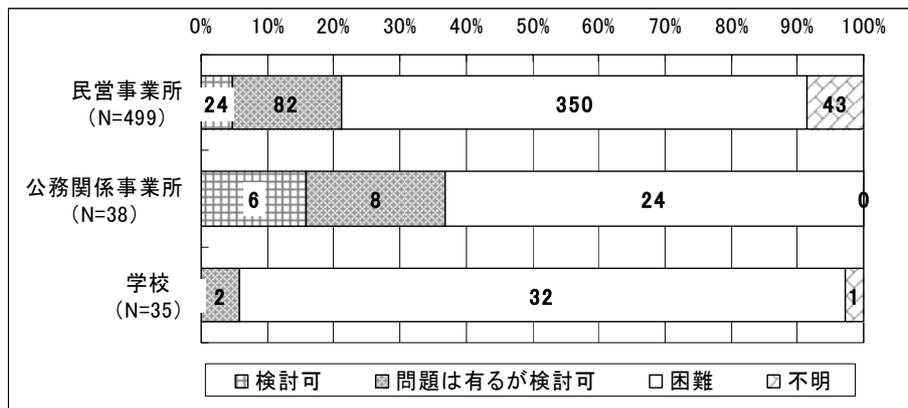


図 4-18 時差出勤・フレックスタイムの今後の導入可能性

(3) 定年制度の動向

現在は約90%の事業所で定年制度があり、約72%が60歳定年となっている。また、将来的には約19%の事業所が変更・新設を予定している。仮に将来的な変更予定を反映すると、60歳定年が10%程度減少し、65歳定年が現在は約7%であるのに対して、約19%まで増加する。

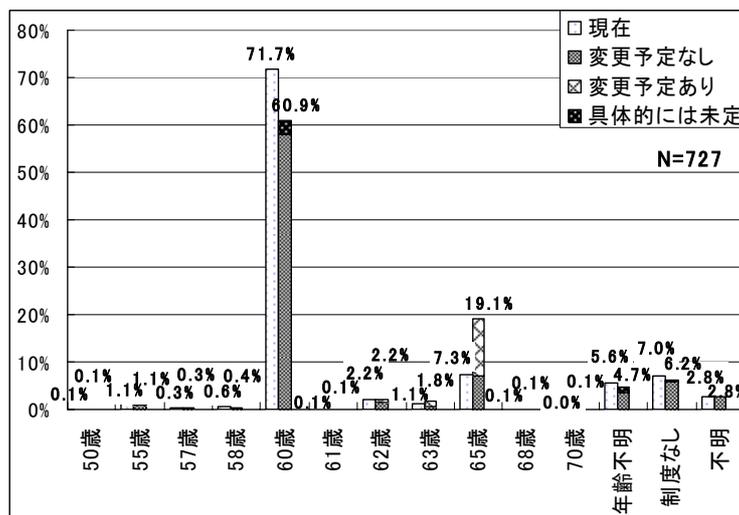


図 4-19 定年制度の動向

(4) 再雇用制度の動向

現在は約67%の事業所で再雇用制度があり、約34%が65歳までとなっている。将来的には約20%の事業所が変更・新設を予定している。仮に将来的な変更予定を反映すると、65歳までの再雇用が約43%と10%程度増加する。

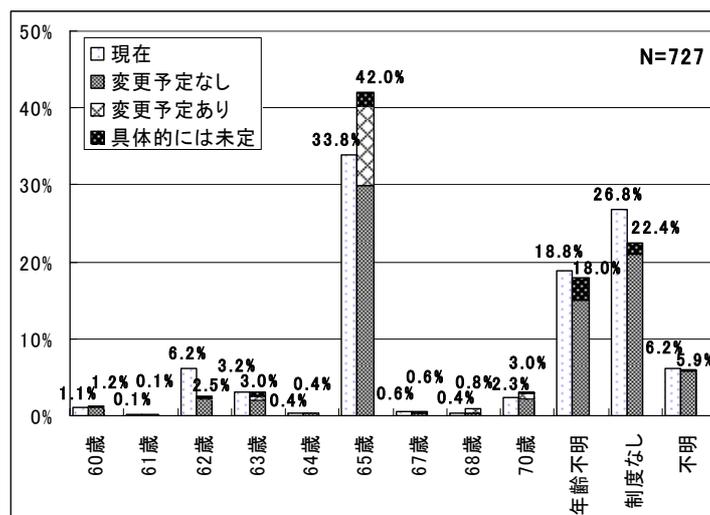


図 4-20 再雇用制度の動向

2. 学校アンケート結果

(1) 回答学校種別

学校回答者 57 校の内訳は右図 4-23 のとおり、専修学校が 35% と最も多く、次いで高等学校が 30% を占める。

その他は、教職員対象の通勤通学交通行動調査で抽出した、保育園・幼稚園・小学校・中学校の合計。

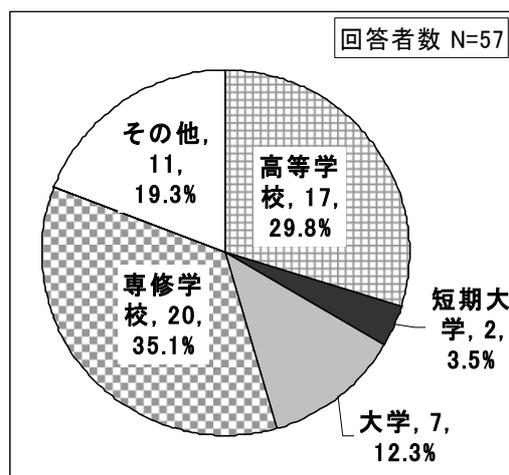


図 4-21 回答学校種別

(2) 保護者等による送迎について

保護者等による自動車での送迎のある学校が全体で 6 割を超える。

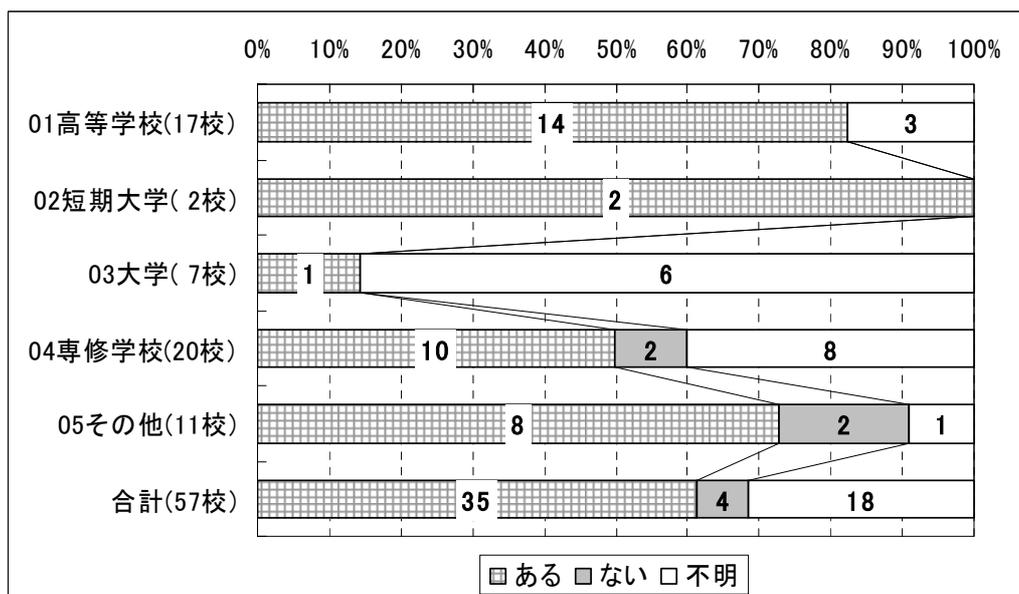


図 4-22 保護者等による送迎

3. 個人アンケート結果

(1) 将来の就業に関する意向（何歳まで働くと思うか？）

男性は 65～69 歳が最も高く、女性は 60～64 歳が最も高い。

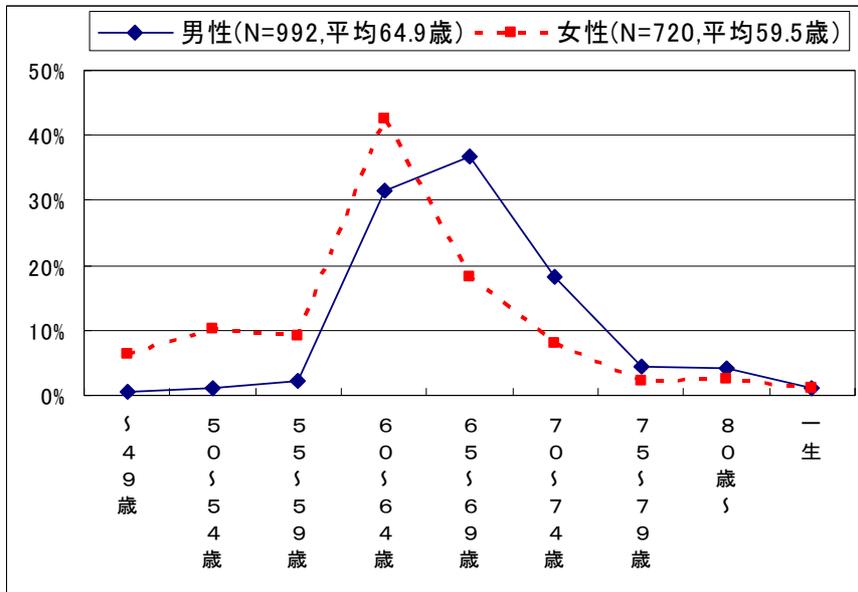


図 4-23 将来の就業意向

(2) 将来の自動車運転に関する意向（何歳まで運転すると思うか？）

男女ともに 70 歳から 74 歳が約 40%と圧倒的に多く、次いで男性は 75 歳から 84 歳、女性は 60 歳から 69 歳までとなっている。

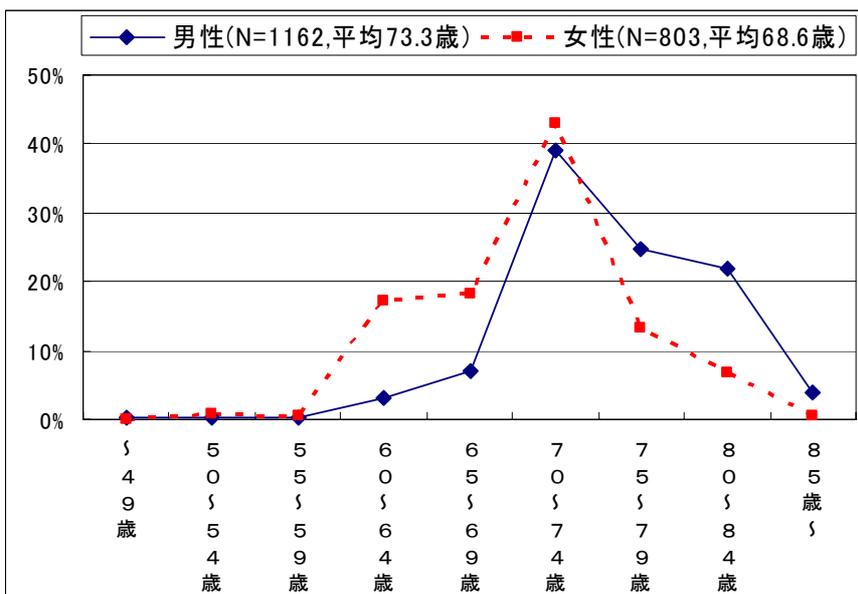


図4-24 将来の自動車運転意向

